



沖縄における中国語及び英語 看板・標識の調査について

7月10日(水)
13:00~14:20

開催趣旨

沖縄の観光地などにおける中国語標識、中国語看板などの訳語が不適切な箇所が数多く見られる。外国語の訳が不適切なら、観光客に迷惑をかけるだけではなく、沖縄観光イメージダウンする恐れもある。沖縄県内外、離島における中国語、英語標識・案内板について調査し、間違っていた中国語や英語を訂正し、沖縄観光環境整備に貢献する。

研究概要

【2024年度 沖縄大学地域研究所共同研究班】

研究名：沖縄県における中国語看板・標識についての調査及び沖縄の観光について

対象地域：沖縄県内外、離島

研究内容：沖縄県内外、離島における中国語、英語表記・案内板について調査し、間違っていた中国語や英語を訂正する。

プログラム

【司会】王 志英 (人文学部教授)

13:00~13:05 登壇者紹介

13:05~13:40 今までの研究と今後の研究について紹介 (王 志英 おうしえい)

専門は中国語学／日中対照言語学／中国語教育学。中国西安出身。京都大学大学院人間・環境学博士。

13:40~13:50 今年度の研究について (泉川 友樹 いずみかわ ゆうき)

日本国際貿易促進協会理事・事務局長。専門は中国経済／日中外交史／中国語通訳。沖縄県豊見城市出身。放送大学大学院・学術修士。

13:50~14:00 今年度の研究について (Bradley Christopher ブラッドリー クリストファー)

人文学部准教授。専門は英語学／英語教育学。カナダ出身。

14:00~14:20 質疑応答

◆◆◆「地域研究公開講座」について◆◆◆

沖縄大学地域研究所には、本学教員及び特別研究員、その他の研究協力者で構成された研究班があります。それぞれ、地域の役に立ちたいという想いで地域研究に取り組んでいます。

本研究活動をより地域に開かれたものとしていくことを目的とし、全ての研究班が地域研究公開講座を実施しています。研究班活動の内容や対象とする課題等について、皆様に分かりやすくご紹介させていただきます。全9班の地域研究公開講座を開催します。(裏面参照)

★視聴無料★ 7/4(木)までに要事前申込

申込先【Googleフォーム QRコード】

※本学HPの「イベント」からもお申込みいただけます。
氏名・連絡先・所属等、必要事項を入力の上送信してください。
お申し込みされた方には、7/5(金)までに、申込受付メールを送信します。メールが届かない場合は、7/8日(月)14時まで
に沖縄大学地域研究所までお問い合わせください。

※講座終了後、アンケートの回答にご協力ください。申込受付メールで
回答フォームURLをお送りします。



問い合わせ先：沖縄大学 地域研究所
住所：沖縄県那覇市国場405番地
沖縄大学アネックス共創館2階
窓口：平日8:30~17:15(12:00~13:00 閉室)
Tel: 098-832-5599
Mail: chicken-staff@okinawa-u.ac.jp

2024年度 沖縄大学地域研究公開講座 開催予定一覧 (6月3日現在)



※次回以降の講座につきましては、詳細が決まりましたら本学HPよりご案内いたします。



	開催予定日	研究代表者名 (所属学科)	研究名	研究内容要約
1	7月10日 13:00~14:20	王 志英 (国際コミュニケーション学科)	沖縄県、離島における中国語標識・案内板確認について	沖縄県内外、離島における中国語、英語標識・案内板について調査し、間違っていた中国語や英語を訂正する。
2	8月 (調整中)	系数 哲 (経法商学科)	沖縄県を中心にした「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる総合的研究	沖縄本島および離島をベースにしながら、様々な災害概念を対象として幅広く地域研究を行い、「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる文理融合の学際的・総合的研究を進めていく。
3	9月 (調整中)	西 章 (福祉文化学科)	沖縄大学「いのちの未来の平和学」プロジェクト	2022年2月末のウクライナ戦争から始まった国際秩序の揺らぎもあり、沖縄大学が「平和と反戦」を強く発信していくような流れを作っていく、〈学び舎〉として平和教育を実践していくことを目的としている。沖縄大学の有志が集まって月一回のペースで地域市民の方々にも門戸を広げ、「戦争と平和」「人類と人権」「非暴力と自由」「差別と不寛容」「本当の意味でのSDGs」などについてのフォーラムやワークショップを企画運営して、沖縄大学から「平和と反戦」の実践活動を発信していく。
4	10月 (調整中)	若林 千代 (経法商学科)	沖縄における地域史とオーラルヒストリーの方法—戦後史研究の実践から問い直す—	沖縄戦後史研究では、オーラルヒストリーの方法と実践に対する学術的検証は未だ十分とはいえない。本研究では、オーラルヒストリーの実践を通じて研究史を再検証しつつ、地域史の新たな方法を探究する。
5	11月 (調整中)	盛口 満 (こども文化学科)	離島における教育連携	地理的に不利な離島地域と大学機能(大学生による出前授業と地域交流)を連携することにより、「離島における教育機会」の課題を整理し、同時に大学機関で今後どのように地域と連携できるか模索する。
6	12月 (調整中)	富山 侑美 (経法商学科)	沖縄県の臓器移植に関する法・政策・倫理—より多くの命を救うために—	移植でしか救命出来ない命を救うための臓器提供が十分ではない現状に鑑み、献腎移植全国1位となったことのある沖縄県での臓器提供推進の取り組みを分析し、政策提言を行うことで、よりよい医療環境の構築を目指す。
7	1月 (調整中)	宮良 恵美 (管理栄養学科)	島コショウの伝統的な栽培・利用方法とその食品機能を活かした商品開発	沖縄で長年愛用されているピーパーズについて、伝統的な栽培・利用方法を学術的・体系的に総括し、最高な芳香を引き出す標準的な製法の確立と生理機能の評価に取り組み、地域団体と協力して、その良さを活かした商品を開発する。
8	2月 (調整中)	豊川 明佳 (経法商学科)	沖縄の地域産業を牽引する企業におけるブランド志向の実践とアクションリサーチ	本研究は、ブランド・アイデンティティの「共創」を中心に据えたコーポレート・ブランディングの実践を行う沖縄県内の企業を対象とし、市場志向からブランド志向への変革と実践へ向けての一連のプロセスを考察する。
9		宮城 能彦 (こども文化学科)	琉球・沖縄共同体の源流と変遷の研究	現在に直接つながる琉球・沖縄の「共同体」は農耕が始まった12世紀から15世紀のグスク時代に始まると言われている。その起源と変遷(特に近世と近代)を考古学と歴史学と社会学の視点から明らかにする。